

平成30年度入学試験問題（帰国子女）

小論文

医学部 保健学科

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配布するので、取り違えないよう注意すること。
解答時間は、100分である。
4. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

日本を初めとしてアジア諸国において、病気や障害を抱えるリスクの高い高齢者が増え続けるなかで、治療やケアを行う保健医療人材が足りなくなっていることは世界的問題となっています。次の文章は、公益社団法人国際厚生事業団が、我が国で行われている「経済連携協定（EPA）等に基づく外国人看護師・介護福祉士受入れ」について、受け入れる日本の医療機関を対象に説明した文章の一部を改変したものです。次の文章を読んで、以下の各問に答えなさい。

- 問1 経済連携協定（EPA）によってなぜ外国人看護師，介護福祉士を我が国に受け入れる必要があるのかあなたの考えを述べなさい。（200字以上 400字以内）
- 問2 我が国の高齢社会でのよりよい保健医療づくり，において「外国人看護師・介護福祉士受入れ」が人材を補うことだけでなく，それ以外にどうにかせるのか，あなた自身の考えを述べなさい。（600字以上 800字以内）

非公開

非公開

(出典：EPAに基づく外国人看護師・介護福祉士受け入れパンフレット・平成30年度版 公益社団法人国際厚生事業団 http://jicwels.or.jp/files/EPA_H30_pamph-r.pdf, 2017/12/01)

平成30年度入学試験問題（帰国子女）

小論文

医学部 保健学科

出題の意図

この小論文の出題の意図は、現在世界規模で移動している保健医療の人材について理解し我が国の保健医療の現場でどう生かせるか考察する力があるかをみています。帰国子女としての海外の経験を活かして、今後の日本の保健医療の国際化において貢献できる眼をもっているかを見たいと考えています。

まず我が国が経済連携協定（EPA）によってなぜ外国人保健医療人材を我が国で受け入れているのかは、二国間又は多国間の間での親密な関係強化をつくるために経済連携の側面で必要になっているかの理解をみます。このことは「2. 受け入れ枠組みの趣旨」に記載されておりますが、保健人材の欠乏を補うという側面だけでなく、経済連携の強化の面があります。どちらもヒントが記載されておりますが、自分の言葉で記載してもらうことによってその理解をみることを考えています。特に経済連携のために保健医療人材の受け入れがあることを理解することは、日本と開発途上国の関係性を国レベルだけでなく、受け入れの現場で個人を受け入れる点でも知っていかなければならない視点です。

さらに日本の現場において単に外国人を単純労働者として受け入れることだけでなく、保健医療の質の改善にどう活かせるのかを考察する力と態度をみています。例えば多文化理解のなかで双方に質を高めることができ多国籍多文化の患者様に対応が可能になること、看護や介護の質において我が国も海外から学ぶ点があることが考察されることが期待されます。またデメリットとして日本人保健医療従事者や患者様との文化的違いによる摩擦、日本人の労働市場との摩擦に触れることは減点の対象とはならず、質の改善をどのようにもたらすかを考察する過程で述べられていれば優れていると考えます。一方デメリットだけ述べられた場合は、現行のプログラムをどう現場で質の改善に活かすかといった保健医療従事者としての基本的な態度と関連した考察能力が不足していると考えます。